



# JSQC ニュース

No.343

発行 一般社団法人 日本品質管理学会  
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内  
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507  
 ホームページ:www.jsqc.org/

## CONTENTS

- 1-トピックス JSQC規格のJIS化
- 2-私の提言 日本のものづくり産業革命に期待
- 2-ルポルタージュ 第382回中部事業所見学会ルポ
- 3-ルポルタージュ 第122回講演会ルポ/4・5月の入会者紹介/教員公募
- 4-総会告知/行事案内/会費請求

## JSQC規格のJIS化

JIS原案作成委員会・委員 中條 武志

**日本品質管理学会規格「日常管理の指針」のJIS化に取り組んでいます。**

### 日本品質管理学会規格（JSQC規格）

標準化委員会は、故吉澤正会長のリーダーシップのもと、1999年に設立されました。以降、a) ISO 9001等の規格の適用に関する研究の促進、b) 基幹となる書籍・資料の発行や講習会の開催による継続的専門能力開発（CPD）の支援、c) JSQC規格の開発・発行などに取り組んできました。

c) については、「品質管理用語」、「日常管理の指針」、「小集団改善活動の指針」の三つが発行済みで、「プロセス保証の指針」、「公的統計調査のプロセス指針と要求事項」、「方針管理の指針」の三つが開発中です。また、「日常管理の指針」は、海外拠点で活用いただけるよう英訳版を発行しています。

### JSQC規格のJIS化

様々な標準化の取り組みは、a) ISO、IECなどの国際標準化、b) 欧州規格などの地域標準化、c) JISなどの国家標準化、d) 社内標準化、e) ASME、ULなどの団体標準化、f) MILなどの官公庁標準化に分けられます。

JSQC規格は、e) の団体規格です。当該分野の専門団体が発行する規格ですので、品質管理を専門とする人達に認知されやすいという利点がある反

面、一般の人にはその存在がわかりにくく、広く活用してもらいにくいという欠点があります。このような点を考慮し、a)～f) の規格の間では、各々の規格の制定に当たって他の規格をそのまま採用したり、引用したりすることが活発に行われています。

その意味では、日本品質管理学会としては、JSQC規格を国家規格、さらには国際規格へと採用してもらえよう働きかけていく必要があります。このような考えに基づいて現在進められているのが、JSQC-Std 32-001「日常管理の指針」のJIS化です。

様々な産業分野で製品・サービスの提供にかかわる事故及びトラブルが発生しています。これらの原因を調べてみると、業務を安定して実施するための活動が適切に行われていなかったものが少なくありません。

守るべきことを標準として定め、その通りに実施できるようにするとともに、異常に素早く気づき、応急処置・再発防止を確実にやるのが重要です。この「日常管理」の進め方をより広く知ってもらって活用してもらうことが目的です。

### JIS化に当たっての課題

JIS原案を作成するに当たっては、学会規格をそのまま採用することになりましたが、難しい点もありました。

最も問題となったのは、JIS規格で

は、要求事項や推奨事項のみを定めるとい点です。品質管理の場合、要求事項や推奨事項の背後にある「考え方」を理解していないと適切に活用できないのですが、自由度のある学会規格と違ってJISの場合、考え方を規格に含めることが認められていないわけです。

基本となる「考え方」について、全員が同じ認識を持っているのなら市販の教科書を読んでもらえばよいのですが、人によって認識が異なっています。全くばらばらで意見が合わなければやむを得ないのですが、多数の人が賛成できるのであれば標準化が可能です。

このため、日常管理のJIS原案では、推奨事項のみを「本文」とし、大多数の賛成が得られた考え方の部分は「附属書（参考）」とすることにしました。また、意見が分かれた点については、「解説」に記しました。

現在、原案が完成し、日本工業調査会による審議を待つばかりとなりました。日本品質管理学会として初のJIS規格の提案が成功し、より多くの人の役に立つことを心より願っています。

JIS原案作成に当たっては、日本規格協会のJIS原案作成公募制度を使用いたしました。また、審議に当たっては、経済産業省、産業界、大学など、多くの方々のお力添えをいただきました。これらの各位に対して心から感謝の意を表したいと思います。

## ● 私の提言 ●

## 日本のものづくり産業革命に期待

一般財団法人VCCI協会 小田 明



最近、雑誌の記事で、“サイレントチェンジ”という用語を見かけ、気になった。サイレントチェンジとは、メーカーの知らぬ間に、取引先の素材メーカーなどに材料の組成を変えられてしまうことを指す。外部からは容易に差分が判断できず、かつ、その影響が顕在化するまでに時間を要するというものである。記事では、“安全に関わる大事な部品を、管理の及ばない海外で製造していいのか、考え直すべきだ。”や、“円安局面で製造の国内回帰も見えつつある今、改めてサプライチェーンを考え直す時

期に来ている”とある。サプライチェーンが国内メーカーに閉じていた時代は、サプライチェーンの端から端まで、最終製品での部品の使われ方まで意識し、かつ、日本の得意とする現場力を活かし不具合発生の未然防止活動が十分に機能することによって、製品の品質を維持し、結果として、日本がものづくり大国として世界をリードできていた時代だったと考える。一方、サプライチェーンがグローバル化し、その階層が深くなってきた昨今、サプライチェーンの末端での不具合ポテンシャルを、如何にして摘出し未然防止するのは、大きな課題の一つである。

ところで、これからは、経営・物流・販売と製造現場が密に繋がる第4

次ものづくり産業革命の時代が到来するといわれている。このような時代では、センサやコントロールなどの技術を利用することにより、サプライチェーンがグローバル化し、その階層が深くなってきても、不具合ポテンシャルを容易に摘出でき、品質が維持できるシステムが実現できるのではないかという考え方もある。一方、人間が介在する現場にこそ、日本のものづくりの復活の鍵があるという考え方もある。

新しい品質マネジメントシステム ISO 9001:2015 が、まもなく発行される。これを機会に、第3次から第4次産業革命に切り替わる今をチャンスととらえ、サイレントチェンジに対する不良ポテンシャルを事前に摘出し、長期にわたり安心、安全な製品を作るシステムを実現し、世界中の顧客からの満足度が高まり、いわゆる、日本発のクオリティ4.0として発信され、日本のものづくりが再び復活することを期待したい。

第382回中部  
事業所見学会  
レポート日本特殊陶業(株) 本社  
「ものづくりはひとづくり」

さる、平成27年7月22日(水)に第382回(中部支部97回)事業所見学会が、日本特殊陶業(株)本社工場(愛知県名古屋市)にて開催された。

標記テーマの下、22名の参加者で行われた。

日本特殊陶業は1936年(昭和11年)に日本碍子(株)〈現日本ガイシ(株)〉のスパークプラグ部門を分離し設立されました。

最初に、日本特殊陶業の製品が身近なところで使われている事をご紹介頂いた。その後、会社概要や人材育成の教育についての説明があり、危険体感機や実物大のマネキンを使った危険予知トレーニングなどの受講生に実際に体験をさせることに重きを置いた教育を実施している事など特徴のある取り組みについて、お

話をうかがった。

工程見学では、2班に分かれプラグの製造順に現場をご説明頂きながら見学する形で実施された。参加者からは「現場はきれいな状態で整理整頓されている。」「世界シェアトップのプラグ製造工程を確認でき、技術力の高さを見ることができた。」などの声があがった。

また、レイアウト別に稼働・段取り・空運転などの状況をリアルタイムでモニターできるシステムの構築や、部品の台車を鉄道車両にみたてて進捗管理を行ったりするといった、さまざまな見える化の活動を見学することができた。

全体を通して、参加者からも積極的な質問も多く、活発な意見交換が行われ、多くの気づきを持って帰られたと感じた。

最後に日本特殊陶業(株)本社工場の皆さまには、業務多忙の中、充実した見学内容の提供と丁寧な説明に、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

酒井 兼義(アイシン精機(株))

## 122回 講演会 ルポ

### 石川馨先生 生誕100年記念 『これからのTQMと品質保証』

狩野紀昭先生による標記講演会が、2015年7月27日(月)、日科技連 東高円寺ビル講堂にて開催された。

石川馨先生の愛弟子の一人として、品質管理の先覚者である石川馨先生の偉大な功績や逸話を交えながら、大変に示唆に富むお話を3パート構成で講演された。参加者は115名。

#### ■A. これからのTQMを考える

従来の「コスト低減に向けた品質」に加えて、「売上向上に向けた品質」を実現することが重要であると提言され、売上(S)の構造を需要(D)、営業力(M)、製品力(P)の3要素の積モデル( $S=D \times M \times P$ )とした営業戦略比較を講じられた。

加えて、買替購入が増える今後は、Q1(過去品質)、Q2(現在品質)、Q3(未来品質)の3つの品質の考慮が必要であるという新しいコンセプトを階層販売構造

モデルに基づき詳述のうえ、顧客歓喜を促進し顧客激怒を起こさないことが重要であると強調された。

#### ■B. 世界の動向を踏まえてのTQM推進を

TQM成功の秘訣から始まり、1950年代以降現在に至るまでの10年間隔でのTQMの内部構造の変遷を、「TQMの館」として分かり易く解説された。その中で、トップによる動機付けが鍵であることを指摘された。

品質汗かき理論、組織運営乗物論、方針管理、日常管理、QCサークルの狙い等、興味深い講演が展開された。

#### ■C. 成長支援の品質保証

イラン工場でのゴミの現物を層別した「床の上のパレート図」のお話など印象的な現場事例を交え、品質保証の評価、Wave Model「品質をプロセスで作ら込め!」、品質保証体系図の理論、品質の縦にらみ評価の強化等、理論体系と実践を踏まえたお話が伺えた。

最後は、参加者との質疑応答の後、全員による盛大な拍手をもって閉会となった。

井上 国治(パナソニック システムネットワークス(株))

### 2015年4月の入会者紹介

2015年4月20日の資格審査において、下記の通り正会員4名、準会員2名の入会が承認されました。

(正会員4名) ○高田 正恵 ○木川 真由美(博愛会 穎田病院) ○加藤 大受・内藤 史郎(ウイングアーク1st)

(準会員2名) ○阿部田 知明(明治大学) ○長谷川 航(東京理科大学)

### 2015年5月の入会者紹介

2015年5月21日の理事会において、下記の通り正会員7名の入会が承認されました。

(正会員7名) ○大田 貴文(ソフトバンクモバイル) ○布施 栄次(日立製作所 ひたちなか総合病院) ○川口 貴弘(東芝) ○谷崎 浩一(東京大学) ○長尾 竹男(長尾・品質/環境コンサルティング事務所) ○吉村 賢司(テュフ ライランド ジャパン) ○野木 隆(サンデンホールディングス)

正会員：2127名

準会員：53名

職域会員：27名

賛助会員：155社200口

公共会員：18口

### 教員公募

#### 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科 教員公募

募集人員 教授、准教授、または助教 1名

所属 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科

専門分野 プロジェクトマネジメント(ビジネス創成、製品・サービスマネジメント等)

着任時期 2016年4月1日

担当科目/応募資格/提出書類

ホームページをご覧ください。

<http://www.it-chiba.ac.jp/institute/adoption/index.html>

選考方法 書類による1次選考を行い、選ばれた候補の中から面接(2次選考)の上、決定します。面接は10月中旬を予定しています。

応募締切 2015年9月30日(水)消印有効

書類送付先および連絡先

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼2-17-1

千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科  
学科長 谷本 茂明

電話：047-478-0464(直通)、e-mail：shigeaki.tanimoto@it-chiba.ac.jp

# 第45回通常総会開催

日本品質管理学会第45回通常総会を右記のとおり開催いたします。

日 時：平成27年11月14日(土) 9:30~10:40

場 所：積水化学工業 京都研究所（京都・南区）

## 行 事 案 内

### ●第109回研究発表会（関西）

日 時：2015年9月18日(金)9:30~17:00

会 場：大阪大学中之島センター

参加費：会 員3,000円 非会員6,000円

準会員1,000円一般学生2,000円

※当日払い

申込方法：関西支部事務局までお申し込み  
ください。

詳 細：http://www.jsqc.org/q/news/events/  
index.html#h270918

### ●第125回講演会（本部）

テーマ：これからのTQMと品質

講演者：狩野紀昭氏（東京理科大学）

日 時：2015年10月7日(水)13:30~17:00

会 場：積水化学工業 京都研究所

参加費：会 員4,320円（締切後 4,860円）

非会員8,640円（締切後 9,720円）

準会員2,160円 一般学生3,240円

※当日払いは別金額となります。

詳細・申込：http://www.jsqc.org/q/news/events/  
index.html#h270727

### ●第126回講演会（本部）

テーマ：顧客満足(CS)の科学と品質経営への示唆

講演者：圓川隆夫氏（東京工業大学）

日 時：2015年10月15日(木)13:30~17:00

会 場：日本科学技術連盟東高円寺ビル  
地下1階講堂

参加費：会 員4,320円（締切後 4,860円）

非会員8,640円（締切後 9,720円）

準会員2,160円 一般学生3,240円

※当日払いは別金額となります。

詳細・申込：http://www.jsqc.org/q/news/events/  
index.html#h271015

### 第45年度会費請求のお知らせ

第45年度（2015年10月1日～  
2016年9月30日）会費請求書を郵  
送いたします。

郵便局自動引き落としを利用さ  
れている方には請求書を送付いた  
しておりません。10月26日に引き  
落としとなりますので、郵便口座  
の残高をご確認ください。

### ●第45回年次大会・積水化学工業 京都 研究所（本部）

日 時：2015年11月13日(金)14日(土)

13日(金)13:00~15:30 事業所見学会A

GSユアサ 本社産業電池工場

13:00~15:10 事業所見学会B

積水化学工業 滋賀栗東工場

※両社とも、同業他社のお

申し込みはご遠慮ください。

17:00~18:00 現会長講演会

18:00~20:00 年次大会懇親会

14日(土)

9:30~10:40

通常総会／各賞授与式

10:40~11:40 新会長講演

椿 広計氏（統計センター）

12:40~17:30 研究発表会

参加費：（当日払いは別金額）

見学会（28日）

会 員3,000円 非会員4,500円

準会員2,000円 一般学生2,500円

現会長講演会と懇親会

会 員・非会員 4,500円

準会員・一般学生2,500円

研究発表会（29日）

会 員4,320円（締切後4,860円）

非会員8,640円（締切後9,720円）

準会員2,160円 一般学生3,240円

申込締切：2015年11月4日(水)

詳細・申込：http://www.jsqc.org/q/news/events/  
index.html#h271113

### ●第383回事業所見学会（関西）

テーマ：D-egg（同志社大学発インキュ  
ベーション施設）における産  
官学連携による起業支援を通  
じた新規産業創出と地域経済  
発展への取り組み

日 時：2015年11月27日(金)13:30~16:45

見学先：D-egg〔同志社大学連携型起業  
家育成施設〕

定 員：30名

※同業他社のお申し込みはご  
遠慮ください。

参加費：会 員2,000円 非会員4,000円

準会員1,000円 一般学生2,000円

※当日払い

申込方法：関西支部事務局までお申し込み  
ください。

詳 細：http://www.jsqc.org/q/news/events/  
index.html#h271127

### ●第96回クオリティトーク（本部）

テーマ：小集団改善活動を再活性化する  
ためのリレーミーティング

ゲスト：川西由美子氏

（ランスタッド EAP総研）

日 時：2015年12月2日(水)18:00~20:30

会 場：日本科学技術連盟東高円寺ビル  
5階研修室

定 員：30名

参加費：会員3,500円 非会員4,500円

準会員・一般学生2,500円

（含軽食・当日払い）

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXに  
てお申し込みください。

詳 細：http://www.jsqc.org/q/news/events/  
index.html#h271202

### ●第16回「安全・安心のための管理技術と 社会環境」ワークショップ

日 時：2015年12月25日(金)13:00~17:30

会 場：日本科学技術連盟東高円寺ビル  
2階講堂

定 員：130名

参加費：2,000円 ※当日払い

申込締切：12月18日(金)

### 行 事 申 込 先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本 部：166-0003 杉並区高円寺南1-2-1

日本科学技術連盟東高円寺ビル内

TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail:apply@jsqc.org

事務局携帯：090-9128-7979

関西支部：530-0004大阪市北区堂島2-4-27

新藤田ビル11階

日本科学技術連盟 大阪事務所内

TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail:kansai@jsqc.org